

つくば市北条地区を襲つた 大規模竜巻

第四期 稲毛 秀也

皆さんは茨城県つくば市北条地区で、2012年5月6日に発生した大規模竜巻のこと、ご存知だと思います（写真-1）。私は偶然にこの時近くのゴルフ場でプレー中、空一面が暗くなりビーベ玉天の雹が降つてきました直後、たまたま携帯（I-Phone）で竜巻の一部始終を録画しました。その録画映像はNHK、TBS、フジテレビなどからニュース番組で放送されたので、多分ご覧になられていると思います。

つくば市北条は私の生まれ故郷で実家は畠巻の通りになりました。屋根瓦と太陽光パネルは飛び散り、2階部分は突風で被害に遭いました。

その後の調査から、気象

近に当時、大規模竜巻の原因となる巨大積乱雲「スーザン」が発生したとす

る解析結果を発表しました。

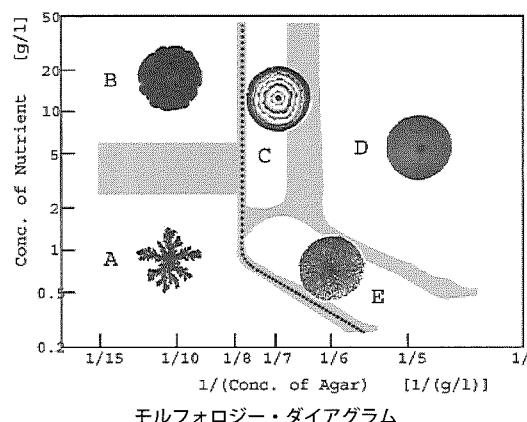
その後の調査から、気象

近に当時、大規模竜巻の原

因となる巨大積乱雲「スー

ザン」が発生したとす

<p



モルフォロジー・ダイアグラム
A・コロニーは、環境条件
により、様々な振る舞いを示します。図に示したモル

第二十七期 脇田 順一
夏の空に浮かぶ人道雲やカリフラワーの表面のぼこぼこと入り組んだ様子、雷や木の複雑に枝分かれした様子など、これらパターンの間にはどこか共通した規則性があるよう感じられます。見つけることができないでしょうか。一見複雑そうな形に見えても、そこに何らかの規則性を見つけることができるかもしれません。実際、これまで多くの研究者がそのような問題に取り組んできました。マンデルブロは自然界に見られる多くのパターン（形）が自己相似的であることに気づき、1970年代に「フラクタル」という概念を提唱しました。「フラクタル」とは、パターンの一部を取り出して全体と同じくらいに拡大しても、もとのパターンと同じように見える、もしく

は全体を縮小したもののが見えて、このように自己相似性をもつパターンを見つけることがあります。パクテリア・コロニーも自己相似的なパターンに成長する場合があります。パクテリアの集団からなるコロニーは、適当な環境下でより大きなサイズへと成長します。パクテリア1匹の大きさは $2\mu m$ 程度、それに比べてコロニーの大きさは $5 cm$ 程度なので、コロニーは十分に巨視的なサイズであると言えます。写真のパターンは、枯草菌（我々に馴染み深い納豆菌はその仲間）が寒天平板の表面に形成するコロニー。パターンを表していきます。複雑に枝分かれした様子はまさに自己相似的であります。複雑な浮遊粒子が確認されます。このような特徴をもつパターンは、パクテリアに限らず雪の結晶などを思い浮かべればわかるように、自然界に多く見かけることができます。

モルフォロジー・ダイアグラム

は、環境条件

を変えること

により、様々

な振る舞いを

示します。図に示したモル

フォロジー・

は、環境条件

を変えること